

【運動領域について】

1 体育科における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

(1) 学習指導要領の趣旨に基づいた授業づくり

① 運動の楽しさを味わえるようにする ○○を楽しく行い、～ができるようにする

- ・ その運動が持っている楽しさを味わえる場面を保証する。
- ・ 運動に親しむ資質や能力を育てる。

※ 「運動に親しむ資質や能力」については、小学校学習指導要領解説体育編 P10 を参照

② 指導内容の明確化 ○○を身に付けることにより、学習がいつそう楽しくなる

- ・ 指導する「技能」「態度」「思考・判断」を把握し、本単元や本時で何を指導するのか、そのためにはどのような活動が必要（有効）なのかを整理する。
- ・ 目指す児童の姿を明確にする。（学習の before ⇒ after をイメージした授業）

③ 言語活動の充実 体を動かすことを通して、言語活動の充実を図る

- ・ 相手や仲間のよい演技に賞賛を送る，互いのよい演技を認め合う，互いに教え合うなどのコミュニケーションを図る学習活動を充実する。
- ・ 自己観察や他者観察などを活用し，仲間の演技からよい動きを見付けたり，ビデオなどの映像を通して自己の演技と仲間の演技の違いを比較したりすることで，自己の取り組むべき技術的な課題を明確にするなど，知識を実践的に活用する学習活動を充実する。

(2) 年間指導計画，単元計画（指導と評価の計画）の作成

① 2 年間のまとめりと系統性の明確化

- ・ 2 学年をひとまとめりとした年間指導計画の作成
- ・ 指導内容と前後の学年とのつながりの整理
- ・ 他領域や他教科，特別活動等との関連

② 指導と評価の明確化

- ・ 評価規準と評価計画の作成
- ・ 指導したことを評価するという原則
- ・ 評価を指導の改善につなげる習慣

<A校の例>2学年でそれぞれ時間を設定し，第5学年では共通課題，第6学年では個別課題に取り組む計画例	
1～5	6～12
自分に合ったインターバルを見つけて，3～5歩のリズムでハードルを走り，ハードルをリズミカルに走り越すために，自分に合った課題を選び，課題別のグループに別れて学習を行う。	ハードルをリズミカルに走り越すために，自分に合った課題を選び，課題別のグループに別れて学習を行う。
<B校の例>第6学年のみに時間を設定し，授業の前半では競走を中心に共通課題に取り組み，後半では個別課題に取り組む計画例	
1～10	
自分に合ったインターバルを見つけて，友達と競走を楽しみながら学習を行う。	
ハードルをリズミカルに走り越すために，自分に合った課題を選び，課題別のグループに分かれて学習を行う。	
図 1 2 学年をひとまとめりとした指導計画例 (小学校体育 (運動領域) まるわかりハンドブック高学年より)	

2 今日的な喫緊の課題 子供の体力向上について

(1) 体育の学習と日常的な運動・スポーツとの運動

- ① 体育で行った運動が，休み時間等でも行われるようにするために，日常的に行われるような手だてを充実させる。
- ② 体力向上についての取組と体育の学習がつながるようにするために，体づくり運動だけでなく，他領域でも関連性に留意する。

(2) 学校，家庭，地域の連携

- ① 学校だけで体力の向上や運動習慣の取組を進めるのではなく，家庭や地域に運動の楽しさや健康・体力問題等を発信する。
- ② 様々な機会を捉えて，体力の向上を地域の共通課題とし，学校の本気を示し，運動・スポーツを通じた地域の活性化に貢献する。

(3) 運動の日常化に向けた取組として

- ① 時間を確保する：「学校行事等の活用」「休み時間のまとめ取り」「始業前，放課後の活用」など
- ② 空間を整える：「自由に使える用具(貸出)」「安全な活動場所」「ラインの常設(コース，コート等)」など
- ③ 仲間を組織する：「縦割り活動，学年・学級活動など遊び集団の多様化」「委員会活動による自主的活動」など
- ④ 手間をかける：「啓発する掲示物」「保護者や地域へ協力依頼」「教師も一緒に活動」「運動日誌の記入」など

小学校 体育

3 指導に当たって

(1) 体育の学習プロセスのイメージ例

- ① 運動を行ってみる：「もっとやりたい」「うまくなりたい」等の思いや願いを持つ。
- ② 目標を決める：自己の能力等に応じた目標を立てる。
- ③ 課題と課題解決の仕方を知る：課題を認識し、課題に応じた解決の仕方を知る。
- ④ 課題を選び、活動を決める：課題を選び、教師が示した活動例を参考に自己決定する。
- ⑤ 運動を繰り返して行う：技能習得を図ったり行い方を工夫したりしながら、課題解決に取り組む。
- ⑥ 活動を振り返る（評価）：達成できたのか自己評価や相互評価をし、ずれを補正する。
- ⑦ 新たな課題を設定する：新たな課題選択→解決のための活動決定→運動の実施→振り返りを繰り返す。

(2) 体育の授業における ICT 活用について

- ① 自分や友達の動きを動画で撮影・再生し、課題を確認
- ② 目標とする動きの具現化
- ③ 動きや課題の共有化

【保健領域について】

1 現行の学習指導要領の趣旨を踏まえる

(1) 保健領域の目標の捉えについて

保健領域の学習指導要領は、身近な生活における健康・安全に関する内容について理解できるようにすることが示されている。この「理解できるようにする」は、健康・安全への知識・理解だけでなく、健康・安全についての関心・意欲・態度や思考・判断などの資質や能力を含んでいる。

(2) 知識を活用する学習活動について

保健領域の学習においては、学習内容を単に知識や記憶としてとどめるのではなく、知識を活用する学習活動を取り入れるなどの指導方法の工夫が必要。

例) 教科書や資料などを基に、課題や解決の方法を見付けたり、選んだりする学習活動
学習したことを自分の生活と比べたり、関係を見付けたりする学習活動 など

2 観点別学習状況の評価の在り方

【健康・安全への関心・意欲・態度】

保健が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を児童生徒が身に付けているかどうかを評価する。

例) けがの防止について、課題の解決に向けての実習、話し合い、発表などの学習活動に進んで取り組もうとしている。

【健康・安全についての思考・判断】

保健の知識を活用して課題を解決すること等のために必要な思考力・判断力等を児童生徒が身に付けているかどうかを評価する。

例) けがの防止について、それぞれのけがを比較して共通点を見付けたり、他のけがの防止に当てはめたりするなどして、それらを説明している。

【健康・安全についての知識・理解】

保健において習得すべき知識や重要な概念等を児童生徒が身に付けているかどうかを評価する。

例) けがの手当てには、傷口を清潔にする、圧迫して出血を止める、患部を冷やすなどの方法があることを言ったり、書いたりしている。

3 保健領域を中核として、総合的に保健教育を進める

保健教育における指導は、体育科保健領域を中核として、家庭科や理科などの関連教科、特別活動、総合的な学習の時間など様々な機会に行われる。指導は各教科の特質に応じて行い、保健教育が目標とする健康に関わる資質や能力の育成を図る。